

MOVE YOUR HEART!

FC GIFU

FC 岐阜
株式会社岐阜フットボールクラブ
取締役会長 宮田 博之

連載 Vol.

111

山田 直輝 選手・長井 結矢 選手の紹介

埼玉県浦和市出身、両親と兄の4人家族。父親は、サッカーの日本リーグ時代にサンフレッチェ広島の前身であるマツダSCの選手で、風間八宏氏（元川崎フロンターレ、名古屋グランパス監督）や森保一氏（日本代表監督）らと共に活躍していた。兄は来年度埼玉県の国スポ（旧国体）サッカー競技少年男子チーム監督予定。

本人は父親の指導で幼稚園時代からサッカーに親しんで以降、小中高校時代にそれぞれ全国制覇を成し遂げられたことが今も嬉しい思い出である。市立北浦和小学校6年時に選抜チームであるFC浦和で、市立本太中学校3年時にも浦和レッズのジュニアユースチームで、県立大宮南高校3年時も浦和レッズのユースチームとして全国優勝を経験してきた。2006年にU-16日本代表としてAFC U-16選手権で優勝。世界24ヶ国が参加する翌年のU-17W杯では背番号10番を背負い、予選リーグで惜しくも敗退となったが3試合にフル出場した。その後浦和レッズに加入し日本代表としても国際試合に出場した。浦和レッズで通算9年間、湘南ベルマーレで通算9年間の活躍を経て、今年からFC岐阜に加入。キャプテンとして絶対に1年で昇格させる決意を固めている。

自分は決して足が速くないが、遅いことをネガティブに思わず、常に良いところを出すように父親や各指導者からも言われ、ボランチやトップ下、シャドーなどのポジションを自分の生きる道として徹底してやってこられたことに感謝している。また、いつもレベルの高いチーム、仲間と競い合ってきたことも成長の源であり、ユース時代の仲間では同期5人がプロになったのも自慢。

現在のFC岐阜の選手たちはJ1、J2のチームとそれほど大きな差はなく、ポテンシャルが高いのもっと成長すると確信している。コミュニケーションも非常に良く、上を目指す気持ちをさらに持って欲しい。「ここからチームが大島監督の元で成長し、初心貫徹で頑張るので、皆さんの応援を何卒よろしくをお願いします」

住居も決め、近く奥さんと8歳の娘、6歳の息子、9歳の愛犬共々岐阜に住んで、FC岐阜を盛り上げたいと思っている。



写真：©FC GIFU

やまだ なおき
山田 直輝 選手 (34歳)

ホームタウン応援大使
岐阜市、美濃市
ニックネーム
やーまん

15
MF
キャプテン

愛知県一宮市出身、両親と妹の4人家族。父親の実家は岐阜県関市で祖父母も健在。

人と人が良く結ばれるようにと名付けてもらった通り、非常に明るく人見知りしない性格で、誰とも話ができて、ストレスを感じたことがないポジティブな人柄。

一宮市立木曾川東小学校3年生まで水泳に励み、4年生から一宮FCでサッカーを始めた。木曾川中学校時代は陸上部で短距離を得意とし、春日井市のFC.フェルボール愛知に加入。高校は進学校でありサッカー強豪校の私立静岡学園高校に進んだ。1年先輩たちは全国優勝をしたが、自分たちの代は県大会4位に終わってしまい悔しい思いをした。ただ、この時代のコーチが個人指導や相談にも乗ってくれ、辛くて言いにくい時にもコーチから声をかけてくれてとても感謝している。これをきっかけに、特に同期だけでなく様々な友人や先輩も大事にしてきている。

その後中部大学に進学したが、サッカー部の堀尾郷介監督のお蔭で初のスポーツ推薦入学選手が実現した。3年生のころから東海学生リーグ1部が上がって強くなり、皆で高みを目指して頑張った。4年生の2024シーズン開幕前にはFC岐阜の練習試合に呼ばれて出場し、スカウトの注目を浴びた。この年の東海学生リーグ1部12試合で10得点3アシストの好成績を残し、9月にはFC岐阜の来季加入内定を掴むと、『JFA・Jリーグ特別指定選手』に承認され、J3リーグ4試合に出場し貴重な経験をすることができた。2025シーズンから正式加入し、中部大学サッカー部創部57年目で初のJリーガー誕生で皆さんから祝って頂き、頑張る決意を新たにしたい。

FC岐阜では昇格に向けて全員の意識が高く、練習にも熱が入っている。試合ではうまく行ったり行かなかったりするが、反省やコミュニケーションもしっかり図って日々成長している。ホームの応援も多く、アウェイも相手チームより上回っていることもあり、本当に有難く頑張る甲斐を感じている。

オフの日は温泉に行ったり、映画を見たり、仲間と過ごしたりするなどリラックスして、皆さんと喜び合える勝利のエネルギーを蓄えています。



写真：©FC GIFU

ながい ゆうや
長井 結矢 選手 (22歳)

ホームタウン応援大使
関市、池田町
ニックネーム
ゆーや

17
FW